

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	35581	
事業名	市民まちづくり活動促進費						
評価担当課	所属名	市)地域振興部 市民自治推進課					
	課長名	大島 真理	担当者名	米田 佑理	電話番号	011-211-2964	
施策名	主	地域マネジメントの推進					
	副						
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外			
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ● その他					
	目的	短期	さぼーとほっと基金の運営を通じて、まちづくり活動団体への助成やPRを行う。				
		長期	市民まちづくり活動を促進するため、寄附文化醸成をはじめ、継続的な助成を行い、市民まちづくり活動団体の基盤強化ができるような環境を整備する。				
	取組内容	①市民まちづくり活動促進基本計画に沿った総合的な事業の推進を行うことに加え、さぼーとほっと基金の適切な助成を実現するため、市民まちづくり活動促進テーブルを開催する。②市民・企業の寄附を原資に市民まちづくり活動団体への助成を行う「さぼーとほっと基金」の運営を行う。③小口寄附拡大のため、市民の「さぼーとほっと基金」に対する認知を高めるためのPR活動、寄附付き商品の開発、クリック募金の運用等を行う。④「まちさぼ」のシステム保守等を行う。⑤上記②のうち、新型コロナに係る基金の協議会運営及び助成申請に係る指導等を委託により行う。					
実施結果	①②団体指定、活動分野、各種冠基金等を設定し、その寄附を財源とした助成金により市民まちづくり活動団体への支援を行った。助成事業数：109事業、助成金額：46,404,940円。③年報の作成や地下鉄掲示板へのポスター掲示、市役所本庁舎のエレベーターサイネージでの広告等PR活動を行った。④まちづくり活動団体の基本情報を団体情報データベースで一元管理する等、市民がまちづくり活動に関する情報を気軽に入手する機会を提供した。⑤新型コロナウイルス市民活動団体支援協議会を設置し、市民活動団体への支援を実施した。						
事業実施における工夫点	さぼーとほっと基金の周知のため、助成を受ける団体には助成事業のチラシ等に基金の助成を受けていることを明示するよう協力依頼しているほか、まちさぼにクリック募金のページを設け、市民が気軽に寄附に関わる機会を提供した。						
対象者	まちづくり活動に参加する市民、NPO、企業			開始	平成20年度	終了	0年度
関連法令・条例・要綱等	特定非営利活動促進法、札幌市市民まちづくり活動促進条例、札幌市市民まちづくり活動促進助成金交付要綱、札幌市新型コロナウイルス感染症対策活動団体支援協議会設置要綱						
他都市の状況	他都市においても、市民によるまちづくり活動の促進を重要な課題と位置づけ、条例の制定や基金の設置など多様な施策を実施している。						

◎事業費

(単位：千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	72,793	91,000	53,718	91,000	
うち特定財源	66,747	80,578	46,405	80,578	
人工	3.0	3.0	3.0	2.8	
人件費	21,600	21,600	21,600	20,160	
計(事業費+人件費)	94,393	112,600	75,318	111,160	
事業費の内訳	令和3年度決算	①促進テーブル(委員報酬、議事録作成費)1,071千円 ②「さぼーとほっと基金」の運営事業(募集要項等印刷費、事務用品費、助成金等)46,633千円 ③寄附文化醸成事業(基金周知チラシ・リーフレット等印刷費、感謝状筆耕費、年報作成にかかる委託費等)1,298千円 ④まちさぼ保守921千円 ⑤その他 支援協議会運営3,795千円			
	令和4年度予算	①促進テーブル(委員報酬、議事録作成費)1,409千円 ②「さぼーとほっと基金」の運営事業(募集要項等印刷費、事務用品費、助成金等)80,719千円 ③寄附文化醸成事業(基金周知チラシ・リーフレット等印刷費、感謝状筆耕費、年報作成にかかる委託費等)3,851千円 ④まちさぼ保守921千円 ⑤その他 支援協議会運営4,100千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1		指標名	さぼーとほっと基金の寄付件数		
		令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
		435	461	717	530
活動指標2		指標名			
		令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
成果指標1		指標名	市民まちづくり活動に参加したことがある市民の割合(%)		
		令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
		90	95	86.4	95
成果指標2		指標名			
		令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	B	助成事業については、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、「後期公募」及び「新型コロナ助成」を中止としたため、前年度と比べ助成金額・件数が減少したが、「新型コロナウイルス感染症対策市民活動団体支援協議会」の設置により、コロナ禍における市民まちづくり活動団体のニーズを確認し必要な支援を実施した。寄附については、寄附額は減少したものの、ふるさと納税ポータルサイトを通じた寄附件数が好調に伸びたことにより寄附件数が増加し、市民の自主的なまちづくり活動の促進に寄与したと受け止めている。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	さぼーとほっと基金を設置した平成20年度から令和3年度までの累計寄附額は、1,220,811千円、累計寄附件数は4,709件、累計助成額は842,267千円、累計助成事業数は1,632件に達し、他の政令指定都市のまちづくり活動に関する基金の実績に比べても、大規模な助成制度と言える。今後も継続して助成を行うために、基金制度の安定的な運営が必要である。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	さぼーとほっと基金の助成については、申請事業を外部委員(学識経験者、企業経営者、市民等)からなる市民まちづくり活動促進テーブル(附属機関)が多角的な観点から審査をしており、適切であると考え。より効率的な審査を行うために、審査の手法等について検討していく必要がある。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに込えているか)	A	クリック募金の参加企業の追加や、街頭大型ビジョンの活用等、さぼーとほっと基金のPRを継続的に行い、市民が気軽に寄附に携わる機会の提供を行った。助成については、前年度と比べ助成金額・件数が減少したが、新型コロナウイルス感染症対策活動団体支援協議会を設置し、コロナ禍における市民活動団体のニーズを確認し、必要な支援を実施した。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input checked="" type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	さぼーとほっと基金についてはポスター掲示や年報を活用してPRしているが、市民の認知度を向上させるため、デジタルサイネージの活用や啓発グッズの作成等、より一層寄附文化の醸成を進め、安定した基金運営を目指す。また、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ実施出来ずにいたが、市民まちづくり活動の促進のため、新規団体向けの効果的な制度説明会や周知イベントの実施を引き続き検討する。				
前回の評価	○ A ● B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	平成20年度に基金を設置してから10年以上経過したこともあり、附属機関の意見も交えた制度の見直し等について検討する予定。			見直し効果額 (前年度)	0千円
今回の評価	○ A ● B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、「後期公募」及び「新型コロナ助成」を中止したこともあり、前年度と比べ助成金額・件数が減少した。一方、寄附金額については減少したものの、ふるさと納税ポータルサイトを通じた寄附件数が好調に伸び、寄附件数が増加した。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善 ○ 現状維持 ○ 休止・廃止 クレジット決済等が可能なふるさと納税ポータルサイトを周知していくことや、クリック募金の協賛企業の追加等により手軽な寄附の仕組みづくりを進め、まちづくり活動への参加促進を図る。また、効果的なPR方法の検討や、制度の見直しについても引き続き検討していく。			
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ その他 さぼーとほっと基金の継続的な運用、新型コロナウイルス感染症に係る基金の協議会運営業務の委託のほか、第4期基本計画策定に必要な費用の予算を計上する。			見直し効果額